

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2021年11月23日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

灯油代・燃料費高騰 福祉灯油や中小業者への助成を 北海道や市町村に要請 函館市で実現へ



11月に入り、灯油価格が1ℓ110円台を超え13年ぶりの高値となっています。厳しい冬を迎える住民や中小企業に不安が広がっています。

15日、北海道社保協など6団体は、北海道知事に、福祉灯油の実施等に関する要望書を提出しました。

冬期間を目前にして道民の暮らしと経済を守るために、①生活困窮者に対して、北海道として福祉灯油を実施すること、②医療・介護・保育・障害者等の施設に対して燃料代の助成を行うこと、③中小零細業者に対して燃料代の助成を行うことを求めました。

各団体から、寒い冬の暖房費を節約している住民の深刻な暮らしの実態や灯油をはじめ燃料代の高騰による中小業者営業への影響について訴えました。市町村が財政不足を理由に福祉灯油の実施をしていないところもあること、コロナ禍の影響で収入も減り、冬でも換気などのため燃料費が増すことなども指摘し、その対策を求めました。

北海道の担当者は、石油製品の高騰による影響は理解していると回答。各市町村では、現金給付や商品券など様々な方法で福祉灯油を実施しているが、北海道も自治体を支援していると説明(地域づくり総合交付金)。要請を受けて改めて検討すると答えました。

北見市 2000筆の署名提出

11月18日、オホーツク勤医協は、北見市に福祉灯油の実現を求める署名約2000筆(目標の2倍)を、浅野目浩美副市長に提出。毎年行っている冬季高齢者実態調査で暖房代を節約して低温で暮らす事例などを前面に実現を求めました。市の担当者は「19日に国が経済対策の閣議決定し交付金が分配されます。その上で一刻も早く検討に入りたい」と回答しました。

北見病院では、16セクションから回り番で、職員がフェイスシールドなど感染対策を行い、外来待合室の患者さんに署名を呼びかけました。取引業者に依頼し、介護事業所では利用者さんに声をかけるなど、つながりを活かして取り組みました。友の会役員やニュースの配達員が集めるなど、コロナ禍で思うような署名活動ができない中で取り組みました。



福祉灯油の要請広がる 函館市では実現へ 各市町村へ実現と拡充を求めましょう



福祉灯油を実施していない自治体への働きかけが広がっています。釧路社保協に続いて、10月15日に札幌社保協が札幌市に要請しました。西胆振社保協も、月14日に室蘭市、18日に伊達市、22日に登別市に要請しました。11月11日には、函館社保協が、函館市に要請しましたが、22日、函館市長は福祉灯油の実施を表明しました。石狩市や小樽市でも実施します。

政府は、19日の追加経済対策で、地方自治体による生活困窮者向けの灯油代購入費助成などを特別交付税の対象にすることを決めました。実現・拡充の条件が広がっています。取り組みを広げましょう。